

企業・団体の「森林への取り組み」の発表

以下の10社の皆さまから、それぞれの森林の取り組みについて、下記の4つの視点から5分ずつご紹介いただきました。（発表順）

- ① 問題は何か？
- ② 何が障壁となっているか？
- ③ どういう取り組みを行っているのか？
- ④ いま乗り越えたいことは何か？

◆協同組合エスウッド（角田 惇 氏）

間伐材の用途開発を進めている。檜・杉間伐材を活用したランダムストランドボード、八代産イグサを活用したイグサボードが主製品。課題は売れないことだったが、東京大学弥生講堂アネックスと福井市立至民中学で壁材として採用されたことをきっかけとして、10年目で初の製造ラインフル稼働となる。現状の問題点は資金不足。また、乗り越えたい壁は林材業界の古い体質で、作り手の顔がみえる「有機工業」を目指したい。

◆株式会社環境ビジネスエージェンシー、認定NPO法人環境リレーションズ研究所（鈴木 敦子 氏）

記念樹を送る「プレゼントツリー」では、12万人近くの参加を得て、4万8000本以上の植林を進めてきた。特徴としては、●一本ごとの管理・識別番号（自分の貢献を見える化することで、参加意識）●長期の管理維持（最低10年間、「里親」としてかかわることで、参加者のロイヤリティ向上を目指す）。●4者間（森林所有者・行政・森林管理施行機関・環境リレーションズ研究所）協定を結ぶ（長期故のリスクヘッジ。万一どこかが無くなったとしても約束が担保される）。乗り越えたい壁は地元の閉鎖性で契約に2-3年かかってしまうこと。

◆JX日鉱日石エネルギー株式会社（杉浦 出 氏）

社会貢献活動の紹介。重点分野：●スポーツ・文化の振興 ●次世代育成・支援 ●環境保全
キーワード：●地域に密着した活動の支援 ●従業員の自主的な活動の支援 そのなかの環境保全分野で、お客様のENEOSカード利用に応じた（社）国土緑化推進機構への寄付は、2001年から2億円近くに上る。また、「地域」と「従業員」をキーワードに、「ENEOSの森」活動や「環境ボランティアリーダー研修」を実施中。さらに、次世代を担う子どもたちに森の楽しさ・大切さを体験させる「森のわくわく学校」を展開中。

◆日本経済新聞社（成澤 竜也 氏）

今年のエコプロダクツ 2011 では、テーマゾーン「森林（もり）からはじまるエコライフ展」を企画。「森のための4つのアクション」1）森にふれよう 2）木を使おう 3）森をささえよう 4）森と暮らそう をコンセプトに、持続可能な森林保全と資源の活用を提案する。去年実績は NPO を含む 31 社・団体の参加。今年は国際森林年ということもあり、多くの企業・団体の参加を募っている。期間：2011年12月15日（木）～17日（土）

◆平和紙業株式会社（田中 雅子 氏）

紙の商社として、環境対応の紙素材の活用法を提案している。「エコ間伐紙」や「南アルプス紙」など、ネーミングも工夫するなど、紙の価値を感じてもらい、森についての理解に繋がるようにしている。日本の森林保全、活性化のしくみ提案のひとつとして、間伐材名刺/国産材名刺+「緑の募金」ができる、GreenHeartProject（名刺一枚につき、1円募金ができる間伐材・国産材の名刺）がある。会社としては情報発信やネットワークの拡大に努めていきたい。

◆オンワード商事株式会社（中川 康明 氏）

高知県と高知市と協働し、「土佐山オンワード“虹の森”」の森林保全活動を展開中。商品開発では、土壌を汚さず土に戻るスーツを販売し、売り上げの一部を more trees（モア・トゥリーズ）に寄付している。現在のスーツは99%重金属（六価クロム）から染められていて、そのままでは環境負荷を与えるため、こうした活動を去年から取り組みをはじめている。また、石油（ポリエステル）に頼らないバイオ素材の服の提供をすることで環境活動の一つを進めていきたいと思っている。

◆有限会社グラム・デザイン（赤池 円 氏）

日本の森の荒廃は、森と街の人々の心が離れていることに1つの原因がある。「私の森.jp」は、その乖離を結び直すための Web プロジェクト。インタビューなど人の言葉を通して、あるいは、「森」についての座学（世界の森や日本の森、クイズなど）を通じて、また国産材だけでつくられた製品やボランティア活動の紹介を通して、街に暮らす人にさまざまな「森への入り口」を提供。人気は一般の方から「森」の写真データを寄付してもらう「森の写真部」。

◆インフォコム株式会社（帝人グループ）（堀 拳駄 氏）

環境、健康、安心・安全（EHS）をテーマに、新規事業をおこなっている。環境（E）：カーボンオフセット事業企画（環境省カーボン・オフセットモデル事業の帝人株式会社松山事業所での実施など）。健康（H）：食からの健康を提案する薬膳レシピ事業。安心・安全（S）：食の安全を軸とした千葉県君津市での里山再生による地域活性化プロジェクト（農業とエネルギー問題、バイオマス・商品開発、イベント・ワークショップ、環境・生物多様性教育）など、本当に世の中の役に立つEHSビジネスを展開中。

◆株式会社資生堂（村田 康宏 氏）

10年間にわたる植林・保全活動の3回目として2011年6月に和歌山県「資生堂 椿の森」において植林活動を実施。社員への環境教育の拠点としても活用し、毎年様々な活動を実施している。今回はボランティアとして社員とその家族約100名が参加し、根の定着や今後の生長をより良くするための、植え方の講習を和歌山県から受けたうえでヤブツバキの植林を実施した。この椿の森での活動を通じて地球の恵みに恩返しをしていくと共に、社員の環境マインドの醸成に積極的に取り組んでいきたい。

◆財団法人ベターリビング（堤 雄大 氏）

ガス業界と推進している環境活動「ブルー&グリーンプロジェクト」（2006年～）。高効率なガス給湯器（プロジェクト対象機器：エコジョーズ、エコウィル、エネファーム）の普及によるCO2排出削減に加え、機器1台の販売につき、ベトナムで1本植樹を行う取り組みを開始。現在174万台普及し、目標は200万台を目指している。森の規模としては1200ha=12k㎡（200万本を想定）。CO2削減のW効果として、50万トン（10万世帯/年のCO2排出量）。1世帯3-4人とする30-40万人程度。ガス業界→住宅業界などに拡げ、サプライチェーン全体での協力体制を築きたい。